

労働政策研究・研修機構労働政策フォーラム

2009.10.14



WASEDA University

早稲田大学 三村隆男



日米のキャリア教育の始まり



1908年、フランク・パーソンズがボストン市民館で職業カウンセリングを開始する。

1909年、フランク・パーソンズ『職業の選択』を著わす。

1919年、大阪市立児童相談所にて職業相談が始まる。



1921年頃の大阪市立児童相談所

1922年、「大阪市立児童相談所紀要」発行される。



新学習指導要領と学習の過程

学習指導要領とは何か

- 学校教育における各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など教育計画に盛り込む内容の総体を....。
- 「教育課程」と呼んでいる。
- 「教育課程」編成の基準が学習指導要領である。
- 学習指導要領はほぼ10年ごとに改訂されている。

学習指導要領告示までの流れ

- 2006年12月 教育基本法改正
- 2007年 6月 学校教育法一部改正
- 2008年 1月 中央教育審議会答申「...学習指導要領等の改善について」
- 2008年 3月 **新学習指導要領（小・中）告示**
- 2008年 7月 教育振興基本計画
- 2009年 3月 **新学習指導要領（高）告示**

教育基本法の改正 (2006年12月) の特徴

- 教育の目標として「**職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと**」を示した。
- 義務教育の目的を「**国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養う**」とした。
- 「**生涯学習の理念**」(第三条)、「**家庭教育**」(第十条)や「**幼児期の教育**」(第十一条)に関する条項を加えた。

学校教育法一部改正 (2007年6月)

- 義務教育の目標のひとつに「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養う」が入る。
- ⇒ 「**将来の進路を選択する能力を養う**」を目標に掲げたことで、小学校教育が中学校、高校教育と進路指導の分野でつながった。

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(2008年1月)

- 将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要がある。

新学習指導要領告示 (小・中) (2008年3月)

- 「**確かな学力**」 定着のため、授業時数、学習内容が増加した。
- 道徳性を育成する体験活動として**職場体験**が例示された。
- 総合的な学習の時間に**職業や自己の将来**に関する学習活動が例示された
- 特別活動において**人間関係の形成**が強調された。

教育振興基本計画 (2008年7月)

- 勤労観・職業観や知識・技能をはぐくむ教育
(**キャリア教育**・職業教育) の推進
- 子どもたちの勤労観や社会性を養い、将来の職業や生き方についての自覚に資するよう、経済団体、PTA、NPOなどの協力を得て、関係府省の連携により、小学校段階からの**キャリア教育**を推進する。

新学習指導要領告示 (高校) (2009年3月)

- 第5款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項
- 生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、**キャリア教育**を推進すること。（教育課程の編成）



キャリア教育の基本的理解

キャリア教育の登場(1999年12月)

(中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」)

**キャリア教育(望ましい職業観・勤労観
及び職業に対する知識や技能を身に付
けさせるとともに、自己の個性を理解し、
主体的に進路を選択する能力・態度を
育てる教育)を小学校段階から発達段
階に応じて実施する必要がある。**

社会 (企業) がもとめる職業能力とは何か

- 就職基礎力 2004年 厚生労働省
 - 社会人基礎力 2006年 経済産業省
 - ジョブ・カード制度 2008年 厚生労働省
-

就職基礎力

「企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間に訓練により向上可能な能力」(2004年「若年者の就職能力に関する実態調査」厚生労働省)

□ コミュニケーション能力

・意思疎通 ・協調性 ・自己表現能力

□ 職業人意識

・責任感 ・向上心・探究心 ・職業意識・勤労観

□ 基礎学力

・読み書き ・計算・計数・数学的思考力 ・社会人常識

□ ビジネスマナー

・基本的なマナー

□ 資格取得

・情報技術関係 ・経理・財務関係 ・語学力関係

社会人基礎力

「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」(2006年「社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－」経済産業省)

□ 前に踏み出す力 (アクション)

・主体性 ・働きかけ力 ・実行力

□ 考え抜く力 (シンキング)

・課題発見力 ・計画力 ・想像力

□ チームで働く力 (チームワーク)

・発信力 ・傾聴力 ・柔軟性 ・状況把握力
・規律性 ・ストレスコントロール

ジョブ・カード制度における「職務遂行のための基本的能力」

「正社員経験の少ない人が、キャリア・コンサルティング様子や、職業訓練の評価を『ジョブ・カード』にとりまとめ、常用雇用を目指した就職活動やキャリア形成に活用する制度」(厚生労働省、2008年)

働く意識と取組

自らの職業意識・勤労観を持ち職務に取り組む能力

責任感

社会の一員としての自覚を持って主体的に職務を遂行する能力

ビジネスマナー

円滑に職務を遂行するためにマナーの良い対応を行う能力

コミュニケーション

適切な自己表現・双方向の意思疎通を図る能力

チームワーク

協調性を発揮して職務を遂行する能力

チャレンジ意欲

行動力、実行力を発揮して職務を遂行する能力

考える力

向上心、探究心を持って課題を発見しながら職務を遂行する能力

キャリア教育の推進に関する総合的調査 研究協力者会議報告書 (2004年)

- **キャリア教育を、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」とする。**
- **学校でキャリア教育に取り組む意義を示す。**
 - (1) **教育改革の理念と方向性を示すキャリア教育**
 - (2) **子どもたちの「発達」を支援するキャリア教育**
 - (3) **教育課程の改善を促すキャリア教育**
- **進路指導との関連を「進路指導の取組はキャリア教育の中核」と位置づける。**

小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 —児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために— (2006,文部科学省)

- **キャリア教育の必要性を示す。**
- **キャリア教育の意義を示す**

子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

学校から社会への移行をめぐる課題

①就職・就業をめぐる環境の激変

- ・新規学卒者に対する求人状況の変動
- ・求職希望と求人希望との不適合の拡大
- ・雇用システムの変化

②若者自身の資質等をめぐる課題

- ・勤労観、職業観の未熟さ
- ・社会人・職業人としての基礎的資質・能力が未成熟
- ・社会の一員としての意識の希薄さ

子どもたちの生活・意識の変容

①子どもたちの成長・発達上の課題

- ・身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
- ・働くことや生きることへの関心、意欲の低下

②高学歴社会におけるモラトリアム傾向

- ・職業について考えることや、職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向の高まり
- ・進路意識や目的意識が希薄なまま、進学・就職する者の増加

**社会的自立・職業的自立に向けて
－児童生徒一人一人の勤労観、職業観の育成－**

キャリア教育の推進

望ましい勤労観、職業観の育成
小・中・高を通じた組織的・系統的な取り組み
一人一人の発達に応じた指導
職場体験・インターンシップ等の充実

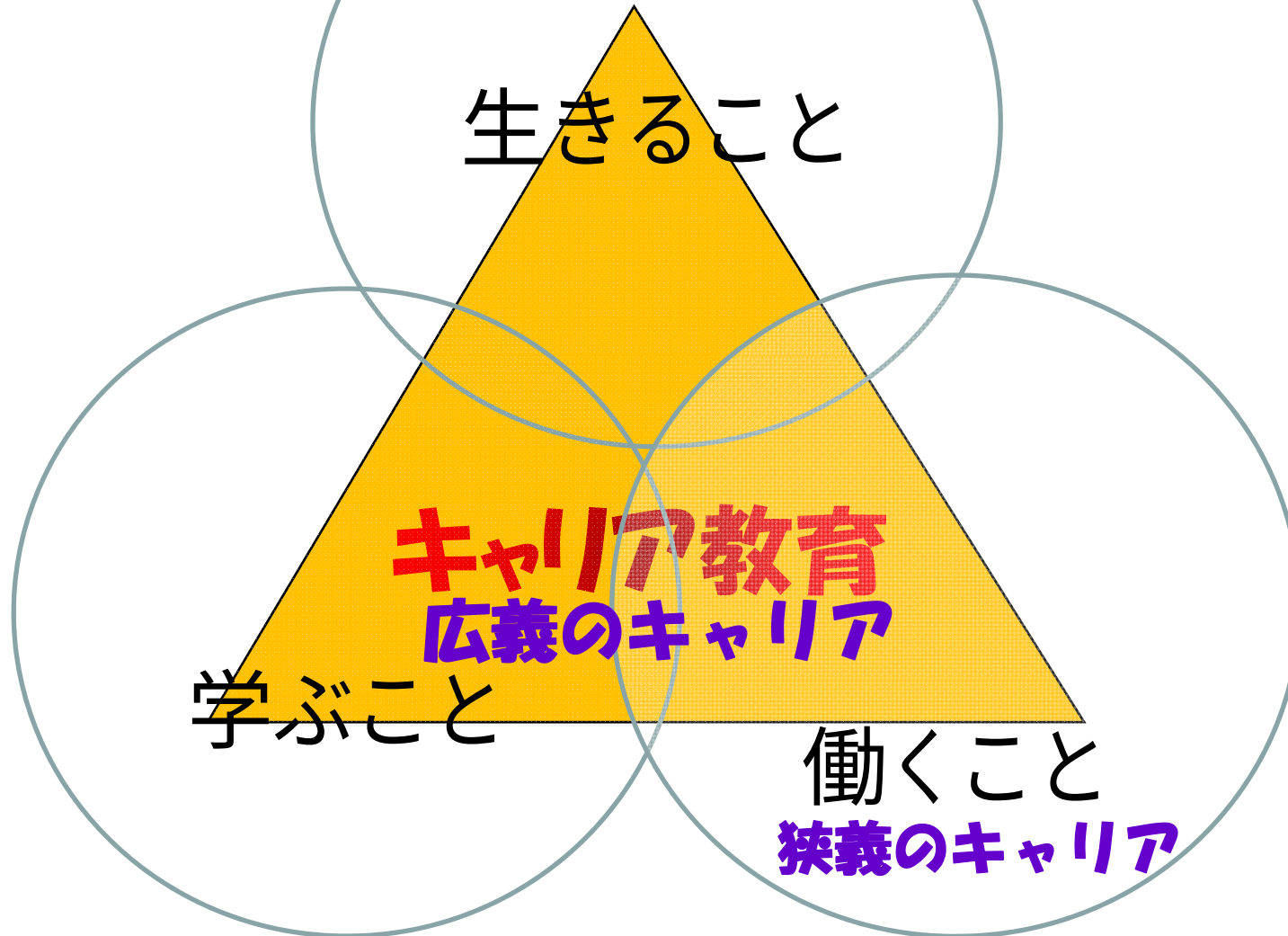
**人間関係形成能力 情報活用能力
将来設計能力 意思決定能力**

学ぶこと

生きること

働くこと

広義のキャリアと狭義のキャリア



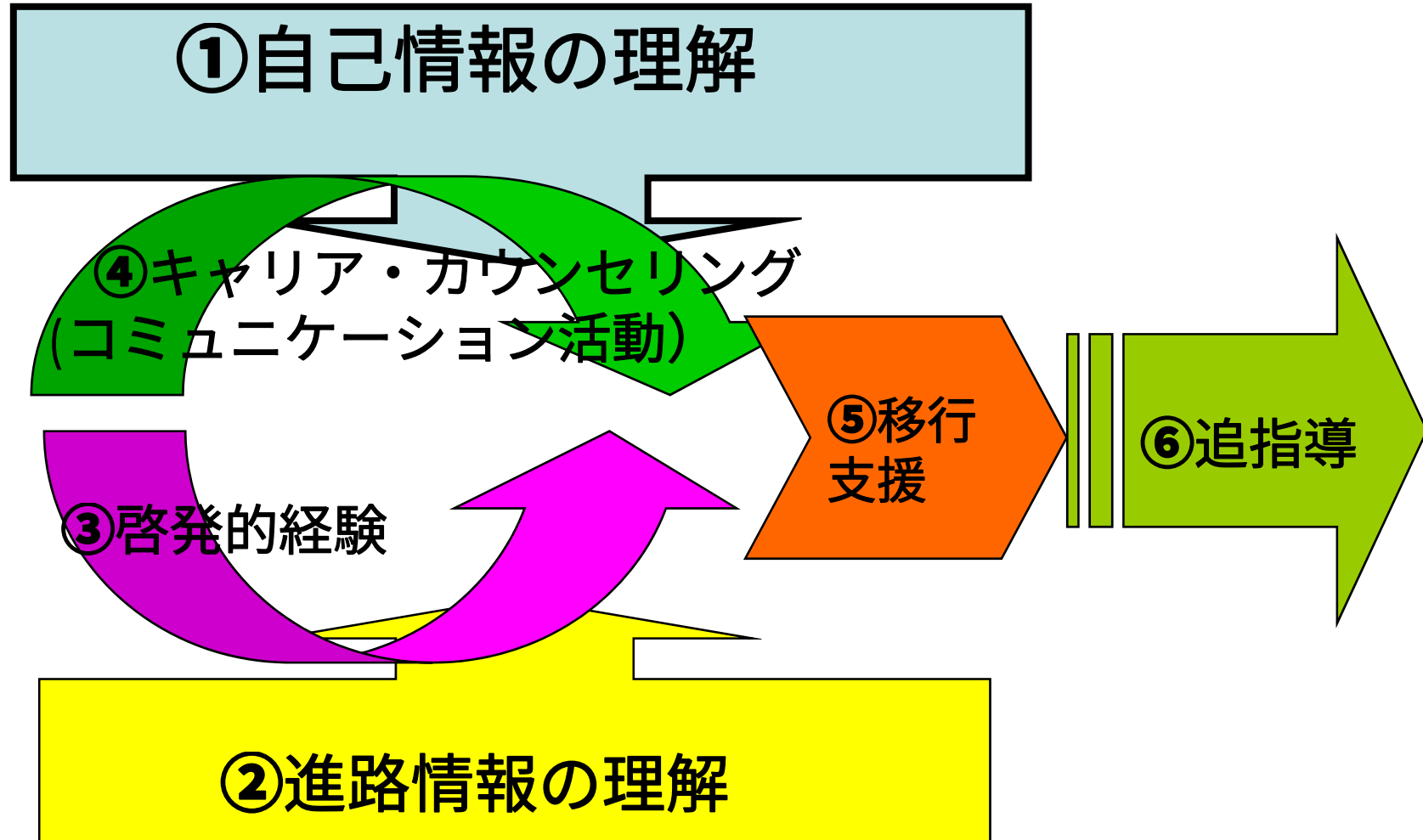


キャリア教育と進路指導の6活動

進路指導の6活動

文部省「中学校・高等学校進路指導の手引き－進路指導主事編」1977年)

- ① 個人資料に基づいて生徒理解を深める活動と生徒に正しい自己理解を得させる活動（自己理解）
- ② 進路に関する情報を得させる活動（進路情報理解）
- ③ 啓発的な経験を得させる活動（啓発的経験）
- ④ 進路に関する相談の機会を与える活動（キャリア・カウンセリング→コミュニケーション活動）
- ⑤ 就職や進学等に関する指導・援助の活動（移行支援）
- ⑥ 卒業生の追指導等に関する活動（追指導）



進路指導6活動の構造モデル

啓発的経験

地域清掃活動・野外活動
環境保全活動・職場体験
ボランティア・福祉活動
奉仕活動など

+

コミュニケーション活動

話し合い・挨拶運動
カウンセリング
グループ討議など

活動の効果性

人間関係形成・情報活用・将来設計・
意思決定などの能力形成

キャリア・スタート・ウィーク

平成17年に文部科学省
が始めた中学校における
勤労観、職業観を育てる
ための**5日間以上**の職場体
験学習。その後、全国に
職場体験が拡大。



参考

中学校 職場体験実施率 96.5%
(5日以上実施は20.7%)

国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2009)

高等学校 インターンシップ実施率 64.6%

国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2008)



キャリア教育をだれが支えるか

学校と職場との連携の鍵を握る保護者は職場体験をどのように考えているか。

保護者 = 地域人 = 職業人

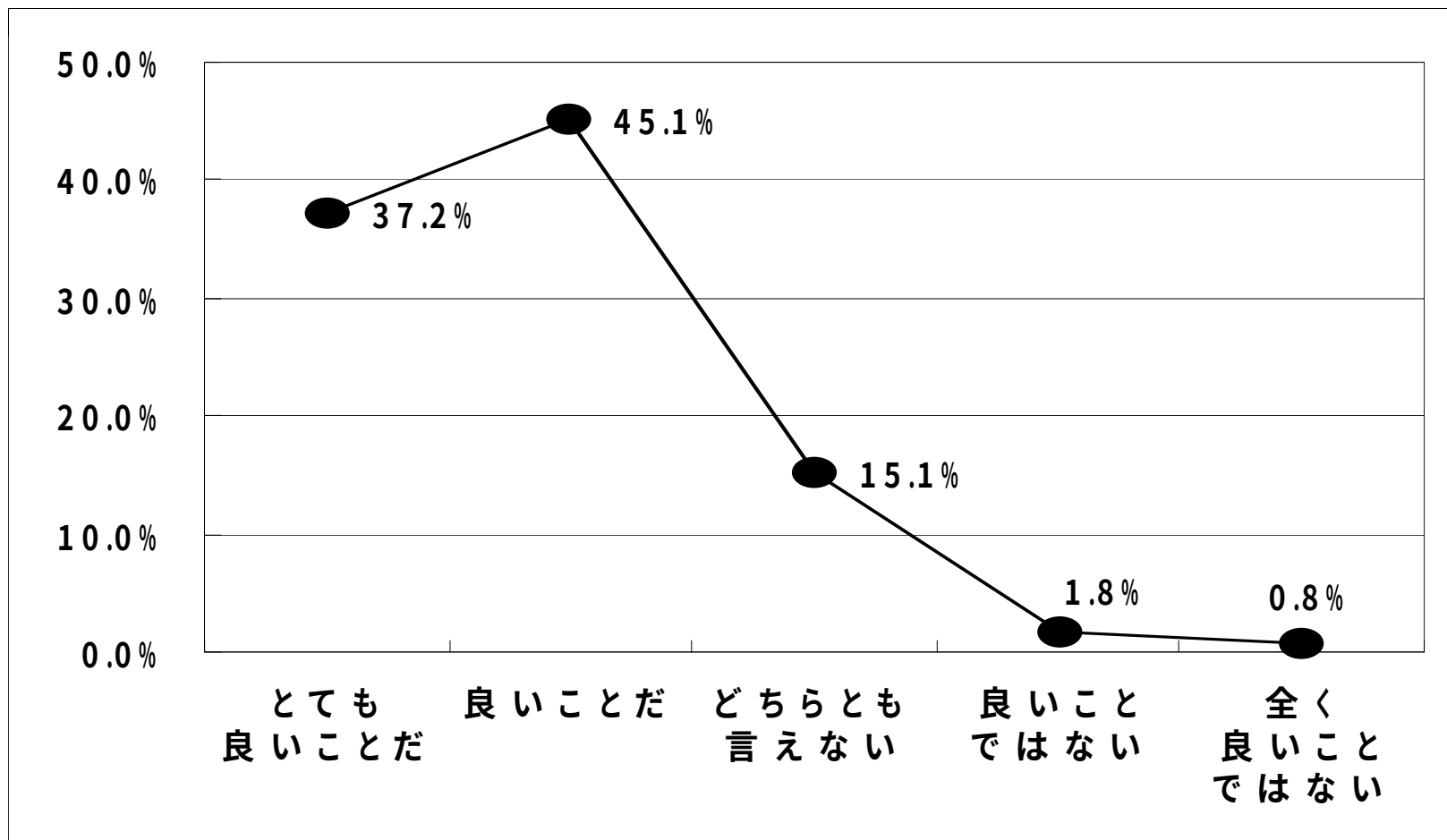
子ども将来とキャリア教育・キャリアガイダンスに対する保護者の意識調査－日本キャリア教育学会と労働政策研究・研修機構との共同研究－の結果をもとに

<http://www.jil.go.jp/institute/reports/index.html>

子どもの将来とキャリア形成に関するアンケート調査概要

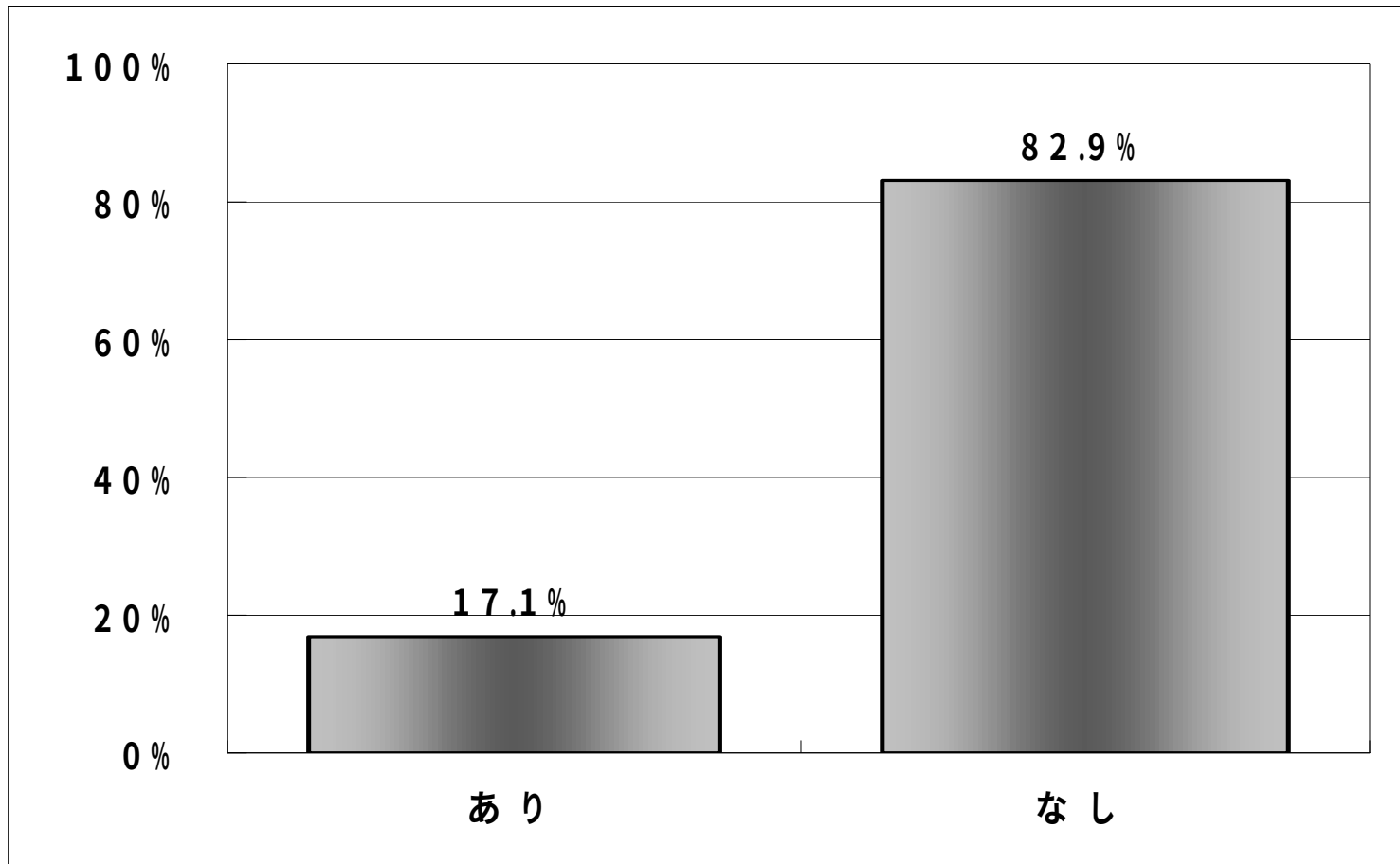
- **目的:**子どもの将来とキャリアガイダンスに対する保護者の意識について調査する。
- **調査時期:**2007年1～2月
- **調査対象:**30代、40代、50代の男女の保護者対象を均等に抽出し1,500人に調査票発送。回収数1,372 (回収率91.5%)
- **研究課題:**
 - ・保護者は親として子どもの将来に何を望んでいるか。
 - ・保護者は学校のキャリア教育についてどう考えているか。
 - ・社会人、地域住民として、キャリア教育をどのように受けているか。
 - ・保護者の今後の社会情勢に対する認識はいかなるものか。

保護者は職場体験学習をどのように評価しているか



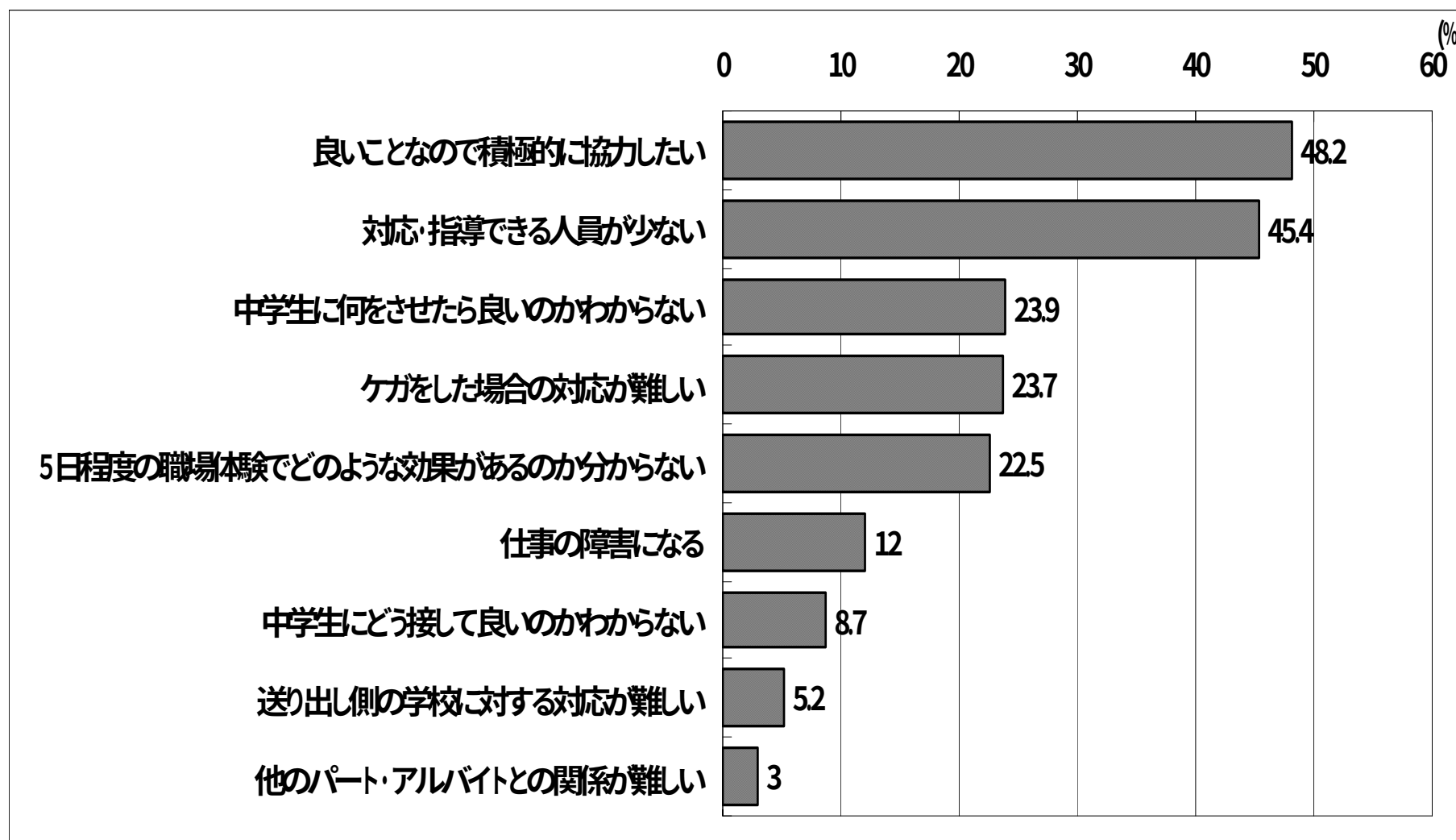
図表1 中学校における職場体験学習に対する評価

職場体験を受け入れた経験のある保護者



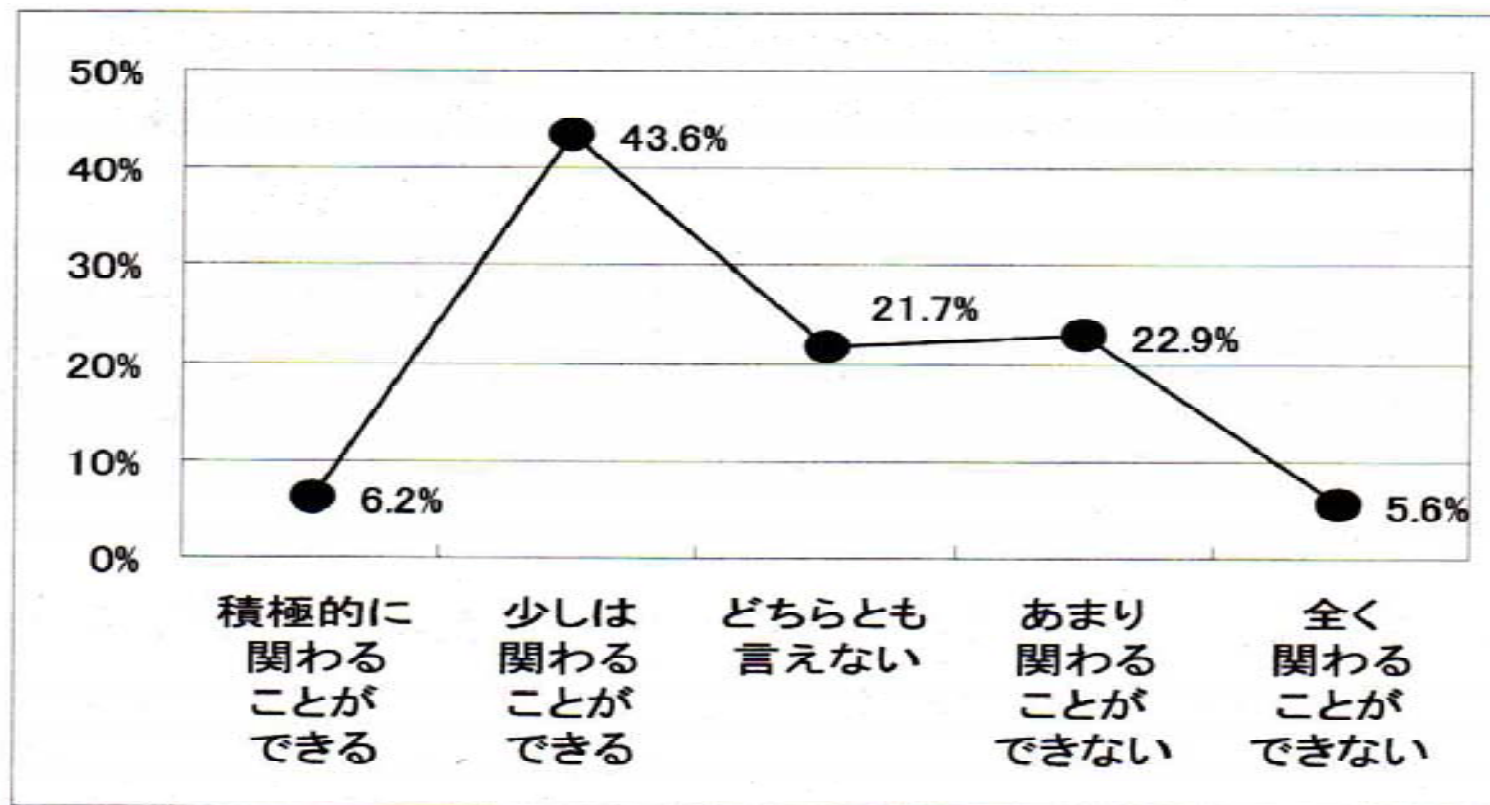
図表2 職場体験の受け入れ経験の有無

保護者の職場体験を受け入れに対する意見 (複数回答)



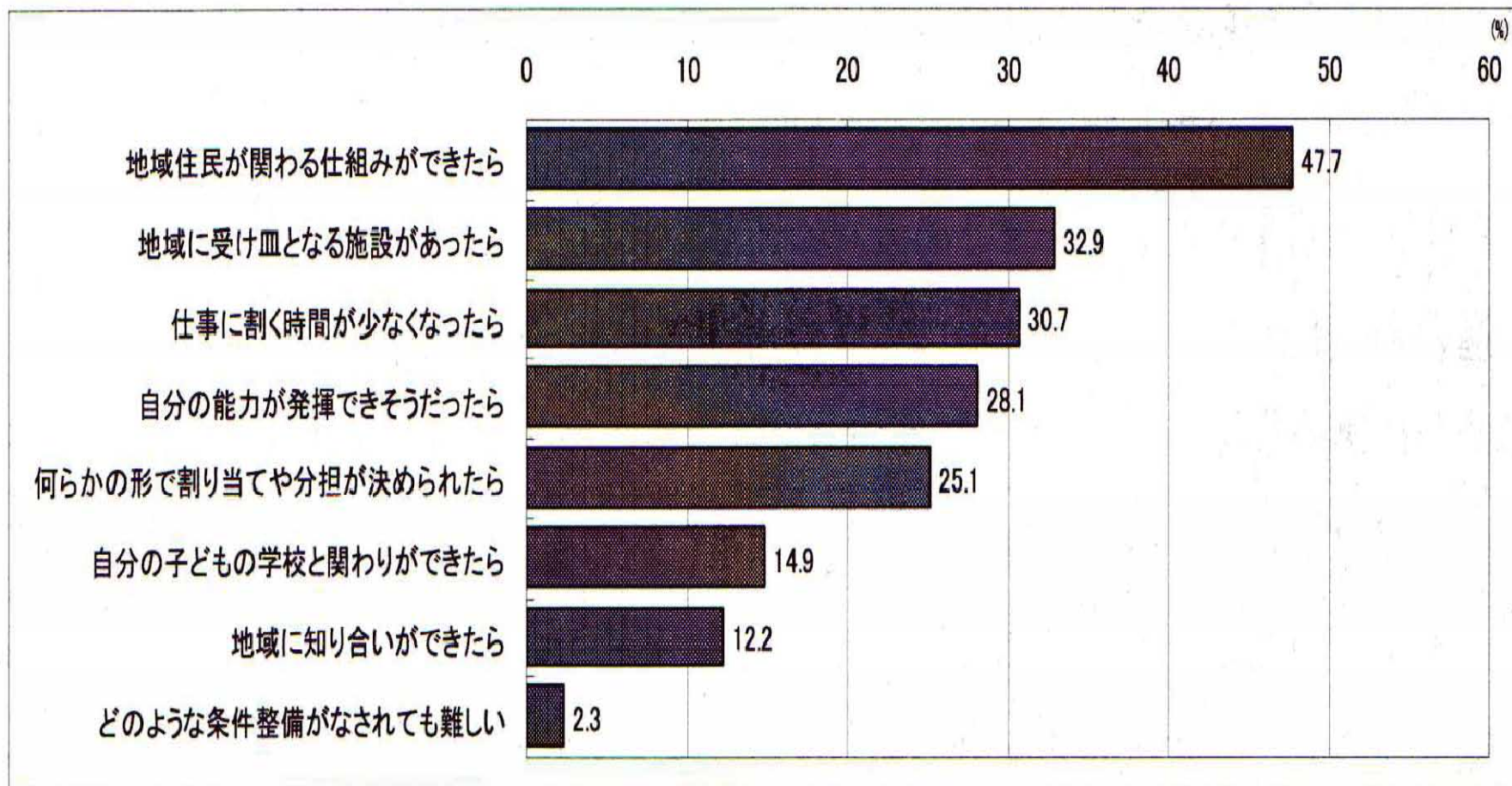
図表3 中学校における職場体験の受け入れに対する意見

地域住民としてキャリア教育にどの程度関わることができるか



図表4 地域住民としてのキャリア教育に対するかかわり

保護者が地域住民として将来に向けた 取り組みに関わる条件 (複数回答)



図表5 地域住民としてのキャリア教育に参画するための条件整備

キャリア教育支援人材の育成

- **経済産業省 「キャリア教育民間コーディネーター育成評価システム開発事業」**

開発委員会を組織し、コーディネーター人材を育成するプログラム及び評価システムの全国版のとりまとめなどについて検討している。

- **中央職業能力開発協会・厚生労働省 「キャリア・コンサルティング研究会ーキャリア教育部会」**

中学校・高校段階のキャリア教育に参画する専門人材の能力要件や育成、活用について検討している。



ご清聴ありがとうございました。



WASEDA University

Takao Mimura

(資料) 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)－職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から ※ 太字は、「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す

			小 学 校			中 学 校	高 等 学 校
			低 学 年	中 学 年	高 学 年		
職業的(進路)発達の段階			進路の探索・選択にかかわる基礎形成の時期			現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階) 各発達段階において達成しておくべき課題を、 進路・職業の選択能力及び将来の職業人として 必要な資質の形成という側面から捉えたもの。			- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 - 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 - 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 - 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成			- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 - 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 - 進路計画の立案と暫定的選択 - 生き方や進路に関する現実的探索	- 自己理解の深化と自己受容 - 選択基準としての職業観・勤労観の確立 - 将来設計の立案と社会的移行の準備 - 進路の現実吟味と試行的参加
職業的(進路)発達にかかわる諸能力			職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度				
領域	領域説明	能力説明					
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	- 自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 - 友達と仲良く遊び、助け合う。 - お世話になった人などに感謝し親切にする。	- 自分のよいところを見つける。 - 友達のよいところを認め、励まし合う。 - 自分の生活を支えている人に感謝する。	- 自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。 - 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	- 自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 - 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 - 自分の悩みを話せる人を持つ。	- 自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 - 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 - 互いに支え合い分かり合える友人を得る。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様な性を理解し、幅広い情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。	- いろいろな職業や生き方があることが分かる。 - 分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。	- 身近な産業・職業の様子がその変化が分かる。 - 自分に必要な情報を探す。 - 気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。	- 産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあり方を理解する。 - 上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 - 生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 - 必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	- 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 - 就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 - 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 - 調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考えて、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	- 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 - 日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。	- 社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 - 仕事における役割の関連性や変化に気付く。	- 自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 - 日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 - 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	- 学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 - ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 - 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したりして、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	- 自分の好きなもの、大切なものを持つ。 - 学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。	- 自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 - してはいけないことが分かり、自制する。	- 係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 - 教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。	- 自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 - 選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 - 教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	- 選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 - 多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 - 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 - 選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。
			自分のことは自分で行おうとする。	- 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 - 自分の力で課題を解決しようと努力する。	- 生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 - 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。	- 学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面を生かす。 - よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 - 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくようとする。	- 将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 - 自分を生かす役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 - 理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身につける。